

BULLETIN OF JAPAN BOOK IMPORTERS ASSOCIATION

洋書輸入協会会報

VOL. 7

NO. 1

(通巻69号) 昭和48年1月

謹んで新春の

お慶びを申し上げます

昭和48年元旦

理事長 司 本

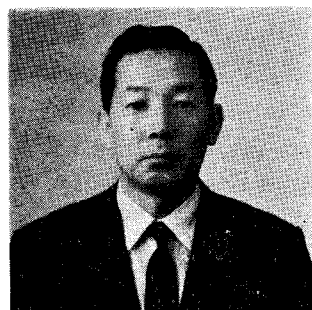


新 春 雑 感

日本出版貿易株式会社

取締役社長 望 月 正 捷

明けましてお日出度うございます



新しい時代を画する70年代に入って既に3年を経、愈々第4年目の幕があけたが、過去3年を顧みると、波乱に富み変動多い3年であった。特に昨年などいまだかつてない大型化した事件が、日本国内のみでなく世界に多発した年は近來稀であらう。

暗い事柄、明るい事柄、色とりどりであるが、政治外交的に複雑な陰影が一部あるものの、国際緊張が緩和される兆を象徴する、ニクソン訪中訪ソ、日中国交正常化、ベトナム和平実現への具体的接渉等、明るい

ニュースは誠に喜ばしいことである。しかしながら日本には直接肌を感じないが、未だ世界の各所で醜い小ざれ合いが後を絶たないのは、人類の業とでも言えようか。残念なことである。

本年はそのような問題がすべて解決し、真の世界平和が確立出来るよう期待したい。又人類挙って努力せねばなるまい。それには先進国、発展途上国、相互理解の上に立って、皆夫々の立場と役割を果たして行くことが肝要であらう。

国際経済問題にしても同様である。国際収支に悩む米国、英国加盟により一層強化拡大されたEC、中国の国際社会復帰、通貨問題に風あたり強い日本等、複雑不安の要素は多いが、所謂小異をすべて大同につく精神で共存共栄の実を挙げる努力を希いたいものである。

翻って業界の本年の問題も少くない。特に円再切上げの問題、Accerelated Surface Mail による輸送問題の解決は本年の重要課題とならう。輸送の迅速化は予てからの懸案であったが、この制度実現により、問題が更に進展してきたが、複雑化することもさけられない。円切上げ問題は既に経験済の問題だが、再切上げの際は一層スマートに処置せねばなるまい。いづれにしても共存共栄をその旗印とする洋書輸入協会の皆様方の活躍により、この難問題を解決し、相互理解と協調の下に争のない発展的な年でありますよう、皆様同様、希うものであります。

理 事 会 報 告

12月11日（月）

(一) 11月分収支決算検討。

(二) 弔慰金規定の検討。

準会員、賛助会員制の発足に伴う本規定の適用につき決定。

(三) Pergamon Press からの ASP (Accerelated Surface Post) 採用にともなう10%定価アップの申入れに対する検討。山川理事が訪欧の途次同社により打合せた結果にもとづき対策を検討。一応従来の船便による代金を送金することとし、経過を会員にしらせることとする。

(四) その他

第4回フランクフルト旅行のご報告

中 川 晃（洋販）

洋書輸入協会文化厚生委員会の年中行事として行われました第4回フランクフルト国際書籍展視察の欧米旅行についてご報告を申し上げます。

今回の旅行は、9月14日出発から10月4日帰着まで、計画のとおり実施することができ、その間全くの無事故であったこと、ならびに終始極めて和気あいあいとして愉快かつ有意義に旅行を終えたことを、先ずご報告申し上げます。

旅行団の予定人員は、例年のとおり40名でありましたので、その目標達成のため早くから会員各位に対するお知らせはもとより、雑誌への宣伝広告の折込み、有力先へのD.M.の発送、あるいは訪問など極力手段をつくしましたが、結果的には参加人員は総勢31名にとどまりました。その反面、旅行中は比較的小人数のため、統制がスムーズに行きとどき、団員の意思の疏通が充分で、旅行社の準備が万端ととのっていたこともあって、非常に融和的に経過致しました。旅行団の陣容はつぎのとおりでした。

団 長 平岩 寧（アカデミア・ミュージック）

副団長 岩本 暁（タトル）

班 長 保阪富士夫（大阪創元社）

全 木村道之助（南山堂）

全 金子 祥子（早稲田大学文学部）

幹 事 中川 晃（洋販）

副幹事 堤 武男（東光堂）

旅行社 高田 勲（内外航空サービス）

また、参加者の内訳は、男性24名女性7名。輸入協会会員とその関係者は12名、会員外は19名でした。もちろん会員外の方々は会員のご勧誘とご推せんによるものでした。

今回の旅行を概括して申し上げますと、第一に、第3回までの旅行がフランクフルトを中心としたヨーロッパ各国を歴訪するだけでしたが、今回ははじめてアメリカ訪問を日程に加えたことであります。ハワイ・ロスアンジェルス・ニューヨークの各地訪問は、時差の関係もあり、かなりの強行軍でしたが、僅か44万円程度で世界一周ができたことを、参加者がことごとく非常に喜んでおられました。第2に、

各主要都市においては、とくにロンドン・ハリ・ローマ・フランクフルトにおいては、早廻り旅行のわりには比較的に余裕があり、ビジネスに観光にほぼ目的を達することができたことはフランとして高く評価することができると存じます。第3に、航空機の手約、ホテルの選択についてはもとより、ミュンヘン・フランクフルト、フランクフルト・ハンブルグの2回の列車旅行があったのに拘わらず、トラブルが全くなかったことは特記すべきことでしょう。

旅行の日程は概略つぎのとおりでした。

9月14日 羽田発

同 朝ホノルル着 約14時間滞在 夜発

15日 早朝サンフランシスコ着 同地に2泊

17日 サンフランシスコ発 ニューヨーク着
同地に2泊

19日 夜ニューヨーク発

20日 早朝ロンドン着 同地に2泊

22日 朝ロンドン発 ハリ着 同地に3泊

25日 朝ハリ発 ローマ着 同地に2泊

27日 ローマ発 ミュンヘン着 1泊

28日 ミュンヘン発一列車一フランクフルト着
同地に2泊

10月1日 フランクフルト発一列車一ハンブルグ着
同地に2泊

3日 ハンブルグ発

4日 東京着

洋書輸入協会のフランクフルト旅行も回を重ねてすでに4回となり、4年前に方針を立案した時とは相当に事情も変わっております。そのためもありましょうが、今回会員のご参加が少なかったことはまことに残念に存じます。文化厚生委員会では、ひきつづいて73年度の第5回旅行のフランを練っております。先ず何よりも、できるだけ多くの会員のご参加をいただけるようなプランにしたいと考えております。そのため会員各位のご意見・ご希望を承わりたく、どしどしお寄せ下さるようお願い申し上げます。

我国に於ける変動相場移行後の主な為替管理の動きについて

井 上 正 隆

昭和46年8月15日（日本時間16日）、ニクソン大統領は米国経済の再建と、それに起因する国際通貨ドルの信認回復を目的として画期的な内外経済政策を発表しました。この影響を受け我国の外国為替取引は混乱し、これを避けるため為替銀行は一時的に取引をストップする一方、政府は変動相場制への移行を決定しました。それ以来円切上げを見込んで外貨が流入するため、流入をストップするための規制、流出を促進するための自由化が行われてきました。以下為替管理の動きにつき特に一般的なものについて述べてみますと、

・前受金の規制について

46年9月1日より海外から送金される、一契約1万ドル相当額以上の前受金を銀行に売却し、前受証明書の発行を希望する場合は事前に外国為替管理令第13条の許可を日銀外国局管理課管理係で取得する事が必要となりました。その後47年1月6日規制が撤廃されましたが、リーズ資金の流入増加により47年2月25日再度規制を復活しました。さらにポンドの変動相場制移行に伴う通貨不安の発生により、47年6月29日から5千ドル相当額を超えるものについて許可を取得する事に規制が強化されました。

・自由円取入規制について

46年8月18日以降自由円の取入が規制され、47年1月6日規制が撤廃されましたが、47年7月1日より短期外資の流入を抑える目的から、再び規制が開始され非居住者自由円預金の準備率（増加残高に対するもの）が50%に引上げられ、それ以降為替銀行の採算上預金に対する付利は困難となりました。

・貿易外取引の自由化について

47年3月10日より大蔵省、通産省の規制が緩和され、一部の例外を除いて1件1千ドル迄の海外渡航、海外送金が自由化され、銀行の窓口で簡単に手

続を済ませる事が出来るようになりました。さらに、この限度が47年11月20日から通産省所管分24日から大蔵省所管分が、それぞれ3千ドル迄引上げられ、特に海外渡航費については3千ドル以上必要の場合は、為替銀行の承認により事実上無制限となりました。

・1千ドル以下の輸入手続の簡素化について

47年9月1日より輸入貿易管理令が改正され、総価格308千円（1千ドル相当額）以下の貨物の輸入について輸入割当（IQ）物資および原産地又は船積地域によって通産大臣の事前許可を要する貨物以外は輸入承認（I/L）が不要となりました。この措置により輸入代金支払報告書を為替銀行へ提出する必要がありますが、銀行での手続が簡素化されたため、特に個人の輸入取引の増加が期待されております。

・外貨集中制度の廃止と外貨預金勘定開設の自由化について

我国の為替管理の重要な柱の一つとして運営されてきた外貨集中制度を47年5月8日から廃止し、これに伴い外貨預金勘定を自由に開設する事が出来るようになりました。これにより外貨を外貨のまま保有出来るわけで、全く為替相場に無関係となり相場変動のリスクを回避することが出来ます。さらに外貨による物品販売等の自由化、海外渡航運賃等の外貨払の自由化がなされました。

以上、為替管理の動きに関し、特に一般的なものについて述べてみましたが、スミソニアン体制確立後一年を経過した現在、我国の国際収支の不均衡は続いており、海外からの円再切上げ圧力がかかっております。それを跳返すためにはさらに輸入自由化、資本自由化等の自由化を一層進める必要があります。（富士銀行九段支店）

私は今回3年ぶりで欧州を2カ月程廻って参りました。日本に対する評価は素晴しく、ちょっとover value されているようです。終戦直後外国に行った時は、すべてのものが日本より段違いによく、涙して「祖国よ、この国に追いつけ、追いこせ」と祈ったものです。それにくらべて今回は各国から日本が目標にされています。東南アジアの国々は勿論、ヨーロッパの国からも「日本を見習え、日本へ追いつけ」といわれています。或る意味で有難く思いました。又旅行自体も大変楽で、外国で買いたいものは何にもありません。みんな日本で買えるものなのですから。或いは日本のものの方がはるかによいのです。持って行った外貨を余して帰ったのも始めてです。いつも羽田で私のポケットの中は15セント位でしたが、今回は私が3百ドル家内も百ドル余あまして帰って参りました。マスコミの論調の如何にかかわらず、日本は素晴らしい国であることは間違いない事実です。又いたる所で日本人旅行者に会いました。私はこれは大変よいことと思います。老いも若きも、猫も杓子も外国へ行くべきです。そして目で、皮膚で外国を感じ自分の祖国に誇りと喜びを持って帰国してほしいと思います。と同時に、どんなに栄えても、物があっても民族としての誇りと喜びがないのは悲しいものと痛感しました。たとえば香港に行きますと、あの素晴らしい景色のビクトリアピークがあります。そこでこのビクトリアピークのほんとの名前は何というのですかと聞いても誰も知りません。「ビクトリアピークはビクトリアピークですよ」と言っても変なことを聞くなという顔をしま

す。そんな筈はありません。香港が英国に支配される前からこの山はあったのです。何とか山という中国名があったに違いありません。人々はそれを今では忘れてしまっているのです。いくら物が豊富で安く、料理がおいしくて、景色がよくても心に一つの悲しみがあります。やはり民族としての喜びは別のところにあるのでしょう。

私の今回の旅行の目的はフランクフルトで毎年開かれる国際書籍展と、フィレンツェで行われたDistripresという会議に出席するためでした。そこで本について少し思っていることを書きます。

日本の出版界について簡単にいいますと、日本の書店は世界で一番商品を豊富に揃えているということと、サービスが世界一よいということです。第一、書籍と雑誌を両方揃えている本屋さんは世界にあんまりありません。外国では大体本か雑誌かどちらか一方しかありません。そして日本ではあたりまえのサービスが外国では全然ないのです。たとえば、ある書店に自分の欲しい本がないとします。その書店は必ず「2、3日中にお取り寄せ致します。」というでしょう。ところが外国の書店で、そこになかった本を出版社からとってくれることは絶対にありません。もし万一あったとしても本がくるのは一ヶ月か二ヶ月後です。それは日本には東販とか日販とかいう取次専門店があるからです。東販日販という取次業者は殆んど毎日書店を廻って注文を受け、届けるのです。だから、2、3日中にその書店に所定の本が届くのです。外国にはこの取次専門店がありません。出版社から直接書店に本が送られるので

ない本を一家出版社までとりに行くことはできないのです。そこで簡単にありませんと断ってしまうわけです。ちょうど世界に三菱商事とか三井物産という商社がないのと全く同じことです。中間取次があるから日本の流通機構が複雑でコストが高いという単純な考えは間違いです。むしろこれら世界に類例のない商社があるからこそ物は安く、早く豊富になるのです。三菱商事三井物産があるからこそ今日の日本の素晴らしい繁栄があり、東日販という取次があるからこそ日本の書店は世界一の豊富な在庫と、サービスができるのです。

日本出版界の劣る点は図書館が貧弱なことです。日本の図書館は残念ながら未開発国の段階とってよいのではないのでしょうか。英国における出版物の25%は図書館が買います。日本では僅か0.5%です。実際皆様もほとんど図書館を利用しないというのが現実ではないのでしょうか。もっと極論すれば図書館

の所在地を知らない方もあるでしょう。又図書館自体も蔵書が少いのも事実です。殊に洋書に至っては皆無の図書館が多いのではないのでしょうか。と同時にライブラリアンという立派な高等な職業が日本ではまだ意識されていません。誠に残念なことです。

現在外貨がありあまって困っているようです。エアバスを買うのも結構ですが、私は日本の大学図書館を始め、各図書館が好きだけ洋書を購入する予算を政府が与えるべきだと思います。洋書はいくら買っても単価が安いので、エアバス一台で何冊の貴重な文献が買えるのでしょうか。そうすれば何々教授が借り出されているのでその本はありませんということも無くなりますし、日本の科学文化発展に極めて有意義と確信します。

世界一の本屋と共に世界一の図書館があつてこそ日本は世界に誇る文化国家となるでしょう。

(洋販社長)

外国出版社の紹介 No. 15



J. C. B. Mohr (Paul Siebeck) Tübingen

J. C. B. Mohr 社の歴史は1801年に Frankfurt am Main に創立した Hermannsche Buchhandlung にまでさかのぼる。1804年に Jakob Christian Benjamin Mohr は同店を買収し、書店並びに出版社として発展させた。

その後ハイデルベルク大学の運動により同市に移住し、店舗は1878年に Paul Siebeck によってうけつがれるまで同地にとどまった。

Paul Siebeck は Tübingen の H. Laupp'schen

Buchhandlung (書店) の持主であった。それ以来両方の書店は Siebeck 家の財産となっている。

ハイデルベルクロマン派との接触以外に Mohr 社は Des Knaben Wunderhorn (本のタイトル)、及び von Arnim, Brentano, Görres 等の著作を刊行した。又学術分野の本も多く出版しているが、その中では神学(新教)・哲学・法律・経済学等のものに特に力を入れている。学術分野における同社の発展は Paul Siebeck 氏の貢献するところが大きい。

同社は多勢の著名な学者が執筆者として獲得されているが、そのうちごく一部をあげると Adolf von Harnack, Albert Schweitzer, Ernst Troeltsch, Paul Laband, Georg Jellinek, Max Weber, Erwin Rohde, Wilhelm Windelband, Philipp Heck, 等である。多くの教科書、全集、論文以外にも永年にわたって専門学術雑誌を発行し、学問の発展に寄与している。そのうち最も古いものは Archiv für die civilistische Praxis で1818年以来、現在も継続して出版されている。

「米国書籍の売上高」

AAP (Association of American Publishers) の集計になる米国の1971年の書籍売上高の統計が Publisher Weekly 誌に発表された。

これによると、1971年の書籍の総売上高は \$3,082,000,000 で、前年より \$15,800 万の増で、5.4% 増というまあまあの数字であった。

金額から見れば1971年の増は1969-1970年の増にほぼ等しい。しかし、いずれも過去10年間の平均増 8 % を下廻っている。この成長率の低下は、米国経済のスローダウンと教育費や図書館予算の削減などが明らかに影響を及ぼしている。

1971年の総額のうち、教科書や予約制参考書類を除く一般書籍の売上高は \$1,439,000,000 で10%の伸びを示している

小・中・高・大学の教科書およびテスト類は、約\$902,000,000 で4%の伸びである。

一般書籍のカテゴリーの中では、ブッククラブが最大の伸びを示し、\$46,000,000 増で、18.5%の伸びである。大衆市場向ペーパーバックは、\$30,000,000 増、15%の伸びである。

ハードカバーの成人向一般書は9%増の児童書は\$1以上のものは9%増であるが、1\$未満のものは24%減と大きく落込んだ。聖書、祈祷書等はずらず、その他の宗教書は7%増。理工学書や専門書は15%増と大きく伸びている。

また、書籍の価格は過去3年来安定しており、一般の消費者物価指数の伸びを下廻っている。ちなみに、

会 員 紹 介

コウケクブック (準会員)

代表者 石 塚 真 知 子

昭和33年に創立されたコウケン技術(株)より、昭和40年に貿易部門が切り離された時点で、コウケンブックも洋書部門を引き受け独立。

以来、コウケングループの主旨である「極新技術情報を都市、ローカル共一律平等に」に慣って、店頭販売や営業部員制度を排し、専ら、調査方式を主体とした個人研究者重点主義を採っている。各技術分野の多様な調査テーマを鋭角的に追及して是れに以合う洋書資料を相対的に普列、速報する。

これにより、遠隔辺境の地差なく「悠しい物を悠しい者へ」の創立時の企案をそのまま、現在も保っている。

1971年の価格上昇率は一般書では0.1%にすぎず、大学教科書で4.1%、高校教科書で2.9%、小・中学教科書で3.9%の上昇である。(Publishers Weekly, 1972年12月18日号より)

「マクミランの名称問題」

ロンドンの Macmillan Limited とニューヨークの Crowell Collier Macmillan, Inc. は、このほど共同で、社名問題での和解が成立し訴訟を取り下げたことを発表した。これにより Crowell Collier Macmillan, Inc. は、既報の通り1973年1月1日から社名を Macmillan, Inc. に変更することになる。

両社の和解の条件は、アメリカのマクミランは米国内およびその他の地域で Macmillan の名を使用してもよいが、英国およびその他の Macmillan Limited の確固たる市場となっている地域では、Crowell Collier その他の接頭語をつけて両社を区別することとなっている。

アメリカのマクミラン社は1896年にイギリスのマクミラン社の子会社として設立され、1951年に独立し、1960年に Crowell Collier に買収されたものである。(Publishers Weekly, 1972年12月18日号より)

「ドイツの医学出版社の協力体制」

1972年11月8日に西ドイツおよびスイスの医学書出版社 Gustav Fischer (シュトゥットガルト)、Hippokrates (シュトゥットガルト)、Hans Huber (ベルン)、J. F. Lehmanns (ミュンヘン)、F. K. Schattner (シュトゥットガルト)、Springer (ベルリン)、Georg Thieme (シュトゥットガルト) および Urban & Schwarzenberg (ミュンヘン) が共同で宣伝広告会社 ≧Med Select≦ を設立した。

まず手始めとして海外輸出向けに、これらの出版社の医学専門書のカatalogを、特に英語で書かれたものに重点を置いて、作成することになっている。このカatalogは完成次第内外の学術書籍業者や学者に送付されることになっている。

そのほかに、医学書の展示即売会の開催や国際書籍展への代表参加などを、同社の共同事業として計画している。(Börsenblatt 西独版、1972年11月14日号より)

——紀伊國屋書店提供——

ニ ュ ー ス

- 三省堂アネックスが新築なり、11月26日オープンされた。洋書部は4階および5階をしめている。
- British Council において英国 ABP の Overseas Marketing Director, Mr. John Spragg のために、11月30日レセプションが開かれた。
- タトル商会では、12月20日出版クラブにおいて、関係者と共にクリスマス・パーティが開催された。
- British Council の Mr. Maughan 宅で、12月22日にクリスマス・パーティが開かれた。

通 関 統 計

外国貿易概況（大蔵省関税局編、日本関税協会発行）1972年9月号所載。

書籍、新聞、雑誌の輸入額。

昭和47年9月 \$5,701,000 1月以降累計 \$46,192,000

昭和46年9月 \$3,082,000 // \$18,093,000

（註）昭和47年1月より、郵便物による通関分を含むよう

になったため前年比が急激に上昇している。

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

（株）極東書店 ☎ 265-7531

Verlag D. Auvermann

Allgemeiner Kongress der Arbeiter- und Soldatenräte Deutschlands vom 16. bis 21.

Dezember 1918 im Abgeordnetenhaus zu Berlin. Stenographische Berichte. Berlin,

1919. 1972 ¥13,800

Deutsches Bürgerbuch für 1845 und 1846.

Hrsg. von H. Püttmann. 2 Bde. Darmstadt

1845- Mannheim 1846. In Vorbereitung ¥13,800

Freiheit, Arbeit. Organ des Arbeitervereins.

Nr. 1-33. Köln, 1849. Als Anhang: Stein, H.

Der Kölner Arbeiterverein (1848-49) /

Czobel, E., Der Kölner Arbeiterverein 1848-

1849 / Czobel, E., Zur Geschichte des

Kommunistenbundes (1925). 1972 ¥10,350

Mönke, W., Die heilige Familie, Zur Redaktions-,

Verlags- und Wirkungsgeschichte der

“Heiligen Familie” von Karl Marx und

Friedrich Engels. Zur ersten Gemeinschafts-

tsarbeit von Marx und Engels. 1972 ¥6,900

Müller, Th., Die Geschichte der Breslauer

Sozialdemokratie. Erster Teil: Bis zum

Erlass des Sozialistengesetzes. Zweiter

Teil: Das Sozialistengesetz. Breslau, 1925.

2 Bde in 1, 1972 ¥13,800

Neue Rheinische Zeitung. Orgau der

Demokratie. Hrsg. von K. Marx. Nr. 1-301.

Köln Juni 1848 - Mai 1849. 2 Bde. 1973 ¥109,200

Weitling, W., Der Urwähler. Eine Wochenschrift

Organ des Befreiungsbundes. Berlin 1848.

1972 ¥7,470

Das Westphälische Dampfboot. Eine Monatsschrift.

Redigiert von O. Lüning. Jg. 1-4 (Alles

Erschienene). Bielefeld Januar 1845 -

Paderborn Mai 1848. 5 Bde. 1972 ¥52,000

（株）南江堂 ☎ 811-7234

Williams & Wilkins. Baltimore

Principles of Cardiac Arrhythmias

by E. K. Chung 1971 ¥8,910

（株）C. E. タトル商会 ☎ 811-7106

Collins American Gem Dictionary ¥420

// English // ¥360

// French // ¥360

// German // ¥360

// Spanish // ¥360

旧帝国ホテルの実証的研究

早稲田大学名誉教授

建築家 明石信道 著

■定価 18,000円

●送料(書留郵便) 都内370円/その他600円

●写真撮影……………村井修

●装幀……………原弘/●製作……………便利堂

■B4判 函入特製本 カバー付

●カラー写真……………27点/●グラビア……………202点

●図版……………138点/●写真版……………612点

●本文……………206頁/●全頁……………420頁

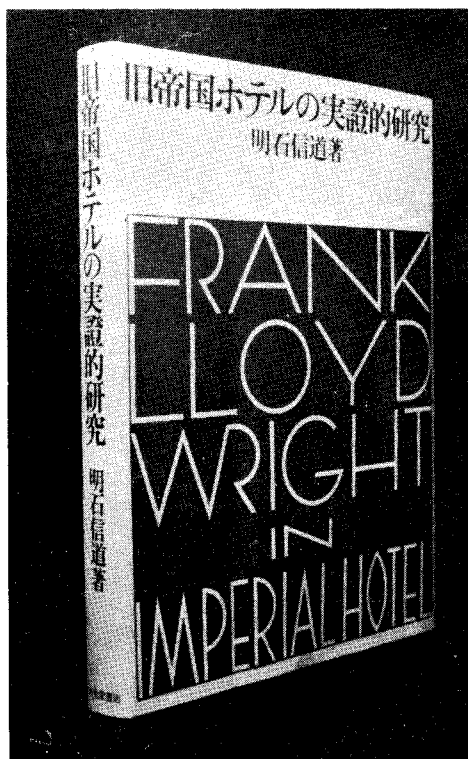
内容見本送呈(〒55円)

著者は建築家フランク・ロイド・ライト氏の芸術作品のうち、旧帝国ホテルに焦点をあて、実測による写真と作図であらゆる角度から観察した研究著作である。今和次郎氏は「……この著作は平面図と写真とをいっぺんのお義理で綴じあげた事務的なものではない。実に情熱と愛着が浸みている本である……」

と序文を寄せられた。

本書は「第一部」には写真家村井修氏の

の撮影にかゝわる作品235点をおさめ、「第二部」には実測によって作成した近代建築史上未発表の設計図58点を掲載し、「第三部」には旧帝国ホテルの平面の分析から造形・装飾・材料・構造の広範囲に視野をひろげ有機論の理念に触れ各章ともに可能なかぎり実測による図版74点と写真612点によって生々しく記し巨匠ライトの設計の根幹から詳細にたどり明晰な総括と展望を与えている。来日した建築家ロバート・ウォーン氏が「ライトの研究書としてはこの書はマイルストーンだ」と感嘆されたのも、その内容の充実を物語るものとして解してよいだろう。



発行所



株式会社

東光堂書店

103 東京都中央区日本橋1-7-6 中内ビル

T E L 03-272-1966 代表 振替東京67687

550 大阪市西区京町堀2-93 京二ビル

T E L 06-443-3004 ~ 5 振替大阪54026

昭和48年1月 通巻第69号 洋書輸入協会

編集者 寺久保一重

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル 302号室

☎ 271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル

☎ 371-5329